

授業記録タイトル：個性は何のためにあるのかな？

教科：道徳

対象学年：小学6年生

執筆者：鈴木健二

準備する教材：-

参考文献：-

ねらい：

子どもたちは、それぞれの個性のちがいがどのような意味をもっているのか意識していないと思われる。個性の違うことを理由に、いじめに発展することすらある。その現状をふまえ、個性のもつ重要な意味を知ってもらい、その大切さに気づいてもらう。

Step 1 =====

資料の提示はプロジェクターで行った。



授業開始と同時に、猿の顔写真（名前は隠しておく）を3つ提示していった。

子どもたちは、

・わ～猿だ！ ・かわいい！ ・ボスみたいな猿だ！ ・目つきが怖い。

などと口々に発言した。

落ち着いてきたところで、

「それぞれの猿には名前がつけられています。どんな名前でしょう。」

と問いかけると、それぞれが思いついた名前を口にした。

子どもたちの予想を受け止めた後、それぞれの名前を告げた。

「左からエフシー（4才）、ダイク（7か月）、フクワライ（11才）という名前です。」

発問 どの猿が好き？

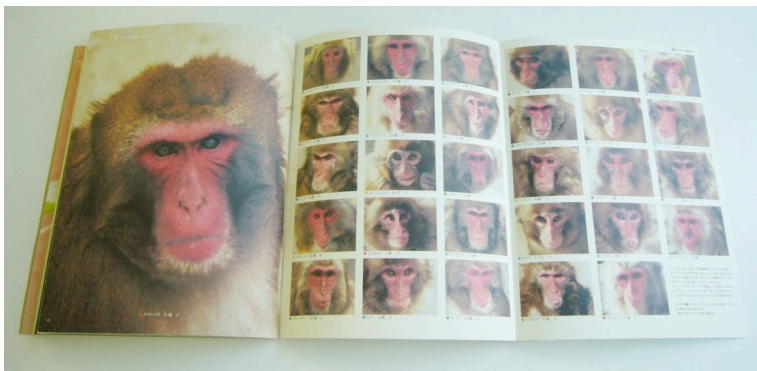
選んだ猿の名前を書かせてから挙手させ理由を発表させた。次のような理由が出された。

フクワライ...**ボス猿のイメージがあってかっこいい**

ダイク...**小さくてかわいい**

エフシー...**目がキョトンとしておもしろい**

Step 2 =====



「2つの猿のグループを見せます」と言って、まずAグループを提示した。

猿がいっぱいて面白いという声が挙がる。

Aグループ
いろいろな猿の写真を9枚提示

Bグループ
エフシーの顔写真（同じもの）を
並べて、9枚提示

「次はBグループです」と言って提示する。

Bグループを見た子どもたちからは、

・わ～みんな一緒だ、**・不気味～**という声が挙がった。

発問 A・Bどちらのグループがいいですか？

AかBを選ばせ、人数を確認すると次のようになった。

A...24人

B...9人

少数派から理由を発表させていった。

【Bを選んだ理由】

・仲がよさそう

・そろっている

・同じ顔でおもしろい

・種類が決まっている

・単純でいい

【Aを選んだ理由】

・年齢がいろいろでいい

・個性もいろいろある

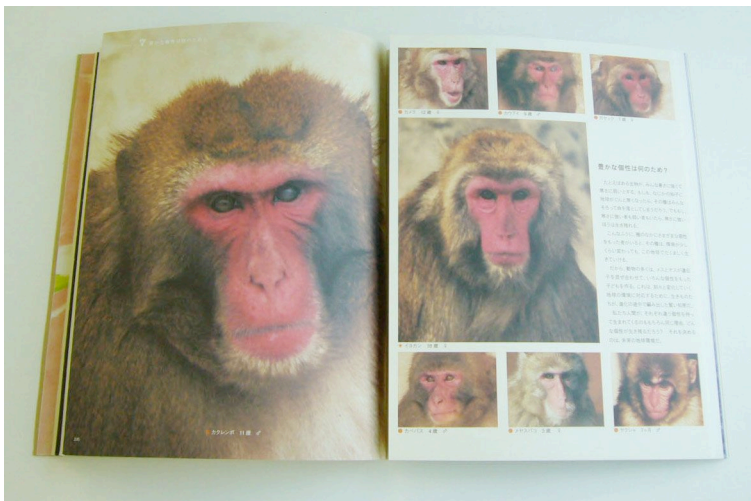
・家族みたいで楽しそう

・Bは同じ顔で気持ち悪い

・それぞれちがう顔がいい

・みんなを引っ張っていくリーダーがいなかったら猿全部が死んでしまう

Step 3 =====



発問 Aグループでちがうのは顔だけでしょうか？

顔以外にもちがいがあ**る**という声が上がった。

そこで次の指示をした。

課題 顔以外にちがうと思うものを3つ書きなさい。

ノートに書かせてから発表させた。次のような考えが出された。

・かかる病気がちがう

・環境

・考えていること

・力

・性別

・名前

・体つき

・性格

・年齢

・心

・住んでいるところ

・群れの中での地位

・父母

出された意見は板書して、たくさんのちがいがあるということを視覚的にとらえさせた。

Step 4 =====

発問 いろいろなちがいを何というか知っていますか？

すぐに生徒たちから、**個性**という言葉が出された。

そこで〔個性〕と板書する。

Step 5 =====

発問 いろんな個性の猿がいると、ケンカになったりしてめんどうだから、Bグループの方がいいのではないのでしょうか。個性はなくてもいいんじゃないですか？

大半の子どもが**個性があった方がよい**、という意見であった。次のような考えが出された。

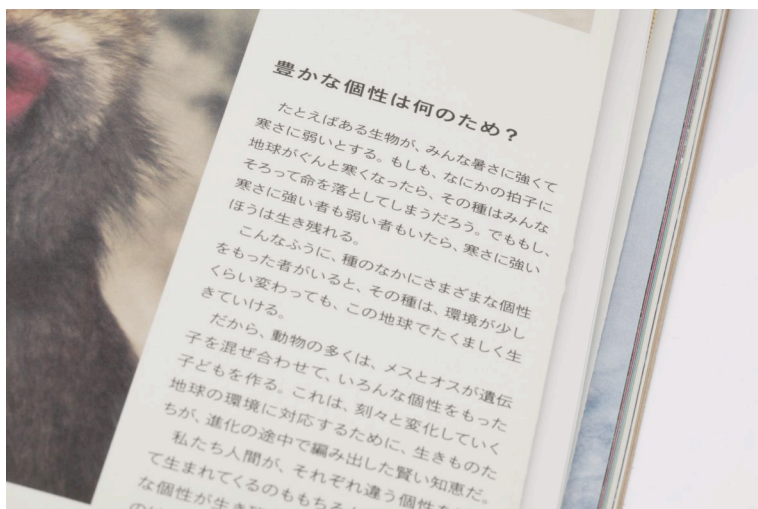
・個性があった方が面白い、その個性に合った役割などができるから

・個性がないとみんな成績が同じだし、遊ぶことも同じ

・同じ考えだとつまらない

・ケンカをしないと人の痛みを知らないで大人になる

Step 6 =====



発問 個性があるのは、猿だけですか？

生徒たちから「ちがう」という答えが返ってきた。そこで、

補助発問 植物にも個性があるんですか？

と問いかけると、次のような答えが返ってきた。

花は自分を見てほしいから他の花とはちがう形になる。

動物だけでなく植物にも個性があることを確認した後、

「この猿の顔写真を紹介している人は、こんなメッセージを書いています」と言って、

“豊かな個性は何のため？”をスクリーン上で紹介していった。

全て示した後、紹介したメッセージと同じものを配布して読み聞かせ、その後、全員で読ませた。

Step 7 =====

発問 この学級のみんなにも個性がありますか？

全員、**ある**と答えた。

Step 8 =====

発問 学級のみんなには個性がなくてもいいんじゃないですか？

あった方がいいと思えば○、なくてもいいと思えば×を選ばせ、理由も書かせた。

挙手で人数を確認した後、少数派から発表させた。

全員が○を選んだ。

・個性がなかったら話をするときも同じ話ばかり、やることも同じことばかりでつまらない。

・個性がいろいろあると友達が増える。

・今みたいに発表する場面のときにみんな同じだったらつまらない。

・いろいろな個性があるからこそ、楽しい6の3（クラス）ができる。

などという意見が出された。

Step 9 =====

課題 “今日の勉強で学んだこと”を書いてみましょう。

次のような感想が書かれた。

・人や動物、植物などは個性を持っていて、そのいろいろな個性を笑ったりしてはいけない。

・生物は個性があって生きていける。

・自分には個性が大事なんだと思いました。

・みんな個性がないと生きていけない。

・ぼくは最初個性がない方がいいと言ったけど、個性がなかったら同じ意見でおもしろくないから、個性がある方が楽しいかあとと思いました。

・私は人の個性とか考えたことがありませんでした。でも、今日の勉強で考えられるようになりました。やっぱり人の個性はあった方がいいなと思いました。

・個性はいろいろな生き物に必要ということがわかった。個性はいろんなことがあって、それを私が自

分でこれからどうつかうか、これから考えようと思います。

・個性は一人一人ちがうんだなあという事、自分だから、〇〇ができるんだという事を 学びました。

・人や生物や植物は、それぞれ個性があった方がよいことを学びました。だから、一人一人意見もちがえば、考えることもちがうんだなと思いました。

・私は、ほんとうに個性がいろいろあったほうがおもしろいと思いました。

・生き物は同じ個性だと一つの弱点でたおせるが、みんなちがう個性だと一つの弱点で はたおせないの
で、その生き物はあまり減らないと考えると、人は別々の個性のほうが いいと考えた。

・個性は一人一人ちがうものをもっていて、生きるために必要ということがわかった。

・みんなちがうのもいいなあ~と思った。

・自分たちには個性というものが必要だということが身についた。

・今まで「同じだったら…」と思うことがたまにあったけど、個性がある方がいいと思います。でもやっぱり全く同じもおもしろい。

・人には、それぞれ良い所、悪い所もある。悪い所を友達が見つけて、お互いに悪い所 をなおして、良い所を伸ばすことができる。

授業者の感想=====

これまで、みんな一緒の方がいいと感じていた子ども達に、それぞれ個性があった方が学級の高まりが出てきていいのではないかとことを気づかせることができた。この授業をすることによって、まずは学級内のお互いの個性のよさに気づかせることが、ほかの生物の多様性の重要性を認識することにつながっていくのではないかと思った。

=====